

会場	番号	講演者 / 所属	演題	内容
18日 (土) A 会場	1	小山悠 東京大学総合文化研究科	概念形成と文脈的定義	文の分解による概念形成という初期フレーゲの考えと文脈的定義による言語拡張の関係について考察する。
	2	中山康雄 大阪大学大学院人間科学研究科	ハーバマスの普遍語用論の検討	ハーバマスの普遍語用論を言語行為論の観点から分析・検討し、その問題点と可能性を吟味する。
	3	井本精一 北海道大学大学院文学研究科思想文化学	脳神経細胞活動とリアリティ	脳神経細胞の活動とそれが表現する認知・運動活動との関連から、人におけるリアリティの所在を考察する。
	4	坂本一寛 東北大学電気通信研究所	同期発火における議論の根本問題	神経の同期発火の意義についての結びつけ表現説や情報流制御説は、同期を手段と考える根本的問題点を孕む。
	5	渡辺恒夫 東邦大学理学部生命圏環境科学科心理学研究室	子供の独我論的体験の構造分析	子供の独我論的体験事例の組織的な調査と構造分析によって独我論を心理学のテーマへ展開することを目指す。
18日 (土) B 会場	1	竹之下保雄 川口市立安行中	ゼノンの逆理	「ゼノンの逆理」から、数学で用いている「連続性」の概念に関して、その諸問題に言及する。
	2	渋谷仙吉 山形大学	二因説的認識と客観性のゆらぎ	外因を第一原因とする外部観測での客観性は外因と内因の相互作用に基づく対話的観測において揺らいでくる。
	3	森田邦久 大阪大学大学院文学研究科・日本学術振興会特別研究員	科学的説明と物理現象の本質	科学的説明と物理現象の本質とは何かという問題を、科学理論の意味論的解釈を用いて分析する。
	4	三浦謙 お茶の水女子大学 文教育学部	認識論から科学の方法論へ	懐疑論、演繹的知識観、パラダイム論を越えて、精密科学に接続するセラーズらの認識論の帰結を考察する。
	5	實川幹朗 姫路獨協大学	プロテスタンティズムの「精神」と科学主義の倫理	科学自身からは導かれない科学主義の拠り所を、プロテスタント的な世俗内禁欲傾向と精神主義に求める。

会場	番号	講演者 / 所属	演題	内容
19日 (日) A 会場	1	壁谷彰慶 千葉大学大学院社会文化科学研究科	行為者因果と因果性	行為者が出来事を惹き起こすということが、因果性の認識の基礎となりうるか検討する。
	2	山口まり子 慶應義塾大学	帰納と因果と奇跡	帰納的推論、因果の概念、奇跡（を信じること）について、これらが相互に関係するか否かを考察する。
	3	鈴木聡 駒澤大学文学部非常勤講師	連鎖式のパラドクスとラフ集合	ラフ集合を用いることにより連鎖式のパラドクスを解決する方法の利点と問題点とについて論ずる。
	4	森元良太 慶應義塾大学大学院文学研究科	自然選択説と道具主義	自然選択説を一つの事例としてとりあげ、これを道具主義的観点から扱い、科学的实在論の主張を吟味する。
	5	伊佐敷隆弘 宮崎大学	出来事の同一性について	出来事個体の同一性の基準についてデイヴィドソン、クワイン、キムたちの議論を検討する。
19日 (日) B 会場	1	田中恵子 Molecule-design.Net	相互作用の場と色の関わり	生体における作用を考察するとき、色の新しい理解が役立つ。相互作用の場に学ぶ色と作用世界を紹介する。
	2	白井仁人 一関工業高等専門学校	干渉する量子確率の統計解釈	統計学的な条件から量子方程式を導出するフライデン理論に基づき、干渉する量子確率の統計解釈を議論する。
	3	小山虎 日本学術振興会特別研究員PD（慶應義塾大学）	現在主義、時制、Truthmaker	現在主義への批判に対して、時制とTruthmakerについての考察から、満足な解答を与えることを試みる。
	4	中山康雄 大阪大学大学院人間科学研究科	規範の論理的規定	特定の集団における規範的言明の承認を分析し、集団的に承認された規範と個人的規範の関係を論じる。
	5	清水 哲男 東京大学医科学研究所・先端医療研究センター	自己同一性と刹那滅性	プラトンの『パルメニデス』とナーガールジュナの『中論』を比較しつつ、自己同一性と刹那滅性の関係について、ロジカル・アトミズムの観点からこれを論じる。